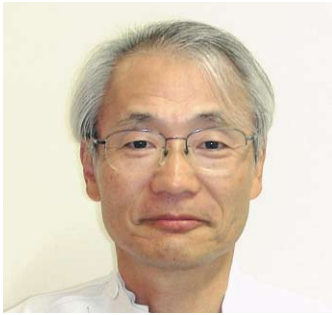


## 金属をなるべく使わない 低侵襲な手術を提供

07年10月に開院した桑園整形外科は、患者が落ち着いて過ごせるよう、自然な配色など、和める工夫を随所に取り入れた建物造りを行なっている。閉所恐怖症の患者にも対応できるオープン型のMRIや無菌状態に近いクリーンルームでの手術など、最先端の設備が完備されているほか、今年8月には、駐車場を拡張し、患者の利便性の向上を図った。

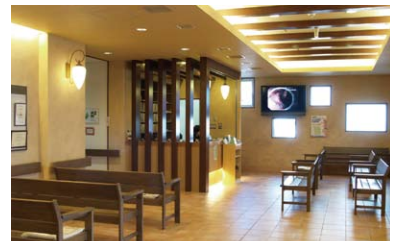
同院の本間信吾副院長は脊椎疾患を専門としており、腰痛や座骨神経痛等の治療を行なっている。治療では、保存療法を優先して行ない、神経ブロック療法やリハビリテーション、生活指導を実施。「Nolesso Obigel」（高い地位に伴う道徳的精



本間 信吾副院長

(ほんま しんご) 北大医学部卒。市立札幌病院整形外科部長を経て、09年桑園整形外科副院長に就任。日本整形外科学会認定医・代議員。日本リウマチ登録医。日本整形外科学会脊椎・脊髄認定医。日本整形外科勤務医会常任幹事。札幌市整形外科医会副会長。札幌市医事紛争委員。

神的義務) をモットーとし、患者の生活背景までみながら、一人ひとりに合わせた治療を提供している。



「現在は手術主体の治療が多く、金属を用いたインスツルメント手術は主流になりつつある。同手術はメリットが大きいですが、デメリットも多い。当院では、デメリットを含めた情報を患者さんに開示し、患者さんの要望を聴きながら、手術の適応を慎重に見極め、手術手技では、できるだけ金属を使わない手術を心掛けています」と本間副院長。金属をなるべく使わないことと、低侵襲な手術を実施、術後の経過観察も長期間にわたる等、フォロー体制も充実。30年にわたって培ってきた経験と技術を活かし、出来る限り患者の要望を聞き入れた診療を提供している。

## 全国屈指の実績を誇る MISを用いた人工関節置換術

同院の東裕隆院長は、変形性膝関節症の患者に対して、最小侵襲手術(MIS)を用いた人工関節置換術を実施。全国屈指の実績を誇る。従来人工膝関節を挿入する場合、

膝の皿を中心に20〜30cm切開し、大腿四頭筋を切る必要があったが、MISでは、筋肉のない膝の皿の横から手術を行ない、特殊な器具を用いる事で、傷口も5〜9cmと非常に小さな傷で手術を行なう事が出来る。傷口が小さいため、患者の精神的

ストレスが軽減され、術後の傷跡も目立たない。また、筋肉を切らないため、リハビリによる回復も早く、2〜3週間で退院する事が出来る。同院では、全国でもいち早くMIS



東 裕隆院長

(あずま ひろたか) 北大医学部卒。市立札幌病院整形外科副院長を経て、07年桑園整形外科開院。日本整形外科学会整形外科専門医・脊椎脊髄病医・スポーツ医・リウマチ医。日本体育協会認定スポーツ医。日本運動器リハビリテーション認定医。全日本スキー連盟スポーツ医学委員。身体障害者認定医。医学博士。

Sを導入。同手術は、医師の熟練した技術が必要なほか、手術機器の改良も必要となるが、東院長は、独自の手術機器の開発も行なっており、まさにMISの草分け的存在。さらに同院は、MIS研修施設の認定を受けており、全国各地から同手術を学びに医師が訪れている。このほか、前十字靭帯や外反母趾の治療にも尽力、どちらも道内有数の実績を誇る。

「患者さんの中には、病院に行けば手術だと考える方もいますが、当院では、保存療法を優先し、適応を見極めて手術を実施しています。痛みを感じたら、怖がらずに一度受診して下さい」と東院長。



### 桑園整形外科

- 札幌市中央区北8条西16丁目28-30  
☎(011) 633-3636  
http://www.dr-azuma.net/
- 診療科目/整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科
- 診療時間/月〜金 9:00〜12:00  
14:00〜18:00  
土 9:00〜12:00
- 休診日/日曜・祝日